



2022年12月期第1四半期 決算説明会資料

2022年5月11日

ローランド株式会社

東証プライム市場：7944



最上級のサウンドとアプリケーションを軽量ボディに搭載。ライブ演奏、楽曲制作、スタジオワーク、すべてに高いパフォーマンスを発揮する最高峰の多用途シンセサイザー『FANTOM-0シリーズ』

今回発表のポイント

- 供給課題（調達制約/コスト増）は継続しているが、**需要は引き続き堅調**
- 生産稼働回復、価格適正化効果等により、**前期Q4比で大幅増収増益**
- 対社内計画比では、**想定をやや上回る着地**
- 外部環境は厳しさを増しているが**通期業績予想は維持**

1 2022年12月期 第1四半期 決算概要

2 2022年12月期 通期業績見通し

3 補足資料

1

2022年12月期 第1四半期 決算概要

2

2022年12月期 通期業績見通し

3

補足資料

<留意事項：会計処理の変更について>

- 2022年12月期は「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日改正、2021年4月1日以後開始する連結会計年度の期首から新たに適用）を適用し、当該基準に基づいた実績および予想となっています
- このため、当該基準適用前の2021年12月期の実績値に対する増減率は記載していません
- 当社においては「売上割引（売上高の約1%）」が、「営業外費用」から「売上控除」に変更となります
- 結果、**見た目上の売上高・営業利益・営業利益率が減少しますが、キャッシュフロー・純利益に影響はありません**
- ご理解の一助のため、2021年12月期と同様の基準で算出した前期比較を記載しております

第1四半期 決算のポイント

- 社内計画に対しては**やや想定を上回る実績**
- 2020/Q4-2021/Q1の在庫政策（売上シフト約20億円）が前期比にマイナス影響

売上高

209億円
(対前期比 -)

- 電子楽器需要は**引き続き堅調**
- 2020/Q4-2021/Q1の在庫政策（売上シフト約20億円）および為替影響をのぞき**概ね前期並み**

営業利益

25億円
(対前期比 -)

- 前期実施の価格適正化が**フルに寄与**
- **前期Q4比で利益率は大幅改善**（P.15ご参照）

四半期純利益¹

19億円
(対前期比 -44.1%)

- 大きな特別損益の発生はなし

¹ 四半期純利益は、「親会社株主に帰属する四半期純利益」を指す

第1四半期 連結業績

(単位: 百万円)	2021年12月期 1Q ¹		2022年12月期 1Q ²					
	実績	売上比	新基準			旧基準 (前期同様の会計基準)		
			実績	売上比	前期比	実績	売上比	前期比
売上高	22,355	100%	20,978	100.0%	-	21,177	100.0%	-5.3%
売上総利益	10,491	46.9%	8,808	42.0%	-	9,007	42.5%	-14.1%
販管費	5,881	26.3%	6,240	29.7%	+6.1%	6,240	29.5%	+6.1%
営業利益	4,610	20.6%	2,567	12.2%	-	2,766	13.1%	-40.0%
四半期純利益 ³	3,423	15.3%	1,912	9.1%	-44.1%	1,912	9.0%	-44.1%

1 2021年12月期1Qの為替レート 米ドル/円：105.91、ユーロ/円：127.72、ユーロ/米ドル：1.206

2 2022年12月期1Qの為替レート 米ドル/円：116.21、ユーロ/円：130.44、ユーロ/米ドル：1.122

3 四半期純利益は、「親会社株主に帰属する四半期純利益」を指す

第1四半期 製品別売上高

- 全地域共通：2020/Q4-2021/Q1の在庫政策（売上シフト約20億円）が前期比にマイナス影響

単位：百万円	2021年12月期 1Q		2022年12月期 1Q				
	実績	構成比	実績	構成比	前期比	実質 ¹ 前期比	コメント（対想定ベース）
鍵盤楽器	6,924	31.0%	6,553	31.2%	-	-9.4%	電子ピアノの需要は高いレベルを維持。需要に対する慢性的な供給不足があるが、概ね計画通りの販売。
管打楽器	5,052	22.6%	4,893	23.3%	-	-8.4%	市況に若干の落ち着きが見られるが、前期発売のフラッグシップ音源を搭載した高価格帯製品等が好調。
ギター関連機器	5,588	25.0%	5,065	24.1%	-	-13.8%	ギターエフェクターは、今期発売したマルチ・エフェクター等が貢献。楽器用アンプは、主力のKATANAシリーズの供給不足があるが、概ね計画通りの販売。
クリエイション関連 機器&サービス	2,836	12.7%	2,758	13.2%	-	-7.1%	コンパクトタイプのステージピアノや今期発売したシンセサイザーが貢献。ダンス&DJ関連製品では、前期発売したサンプラー等が好調。
映像音響機器	1,273	5.7%	1,066	5.1%	-	-19.1%	映像関連機器では、ステイホームを契機とした個人の配信需要が一巡したものの、イベント需要の回復に伴い高価格帯が好調。
その他	679	3.0%	640	3.1%	-	-9.1%	楽器関連アクセサリ(ケース、ケーブル等)は概ね計画通りの販売。
合計	22,355		20,978	100.0%		-10.5%	

第1四半期 地域別売上高

- 全地域共通：2020/Q4-2021/Q1の在庫政策（売上シフト約20億円）が前期比にマイナス影響

単位：百万円	2021年12月期 1Q		2022年12月期 1Q				コメント（対想定ベース）
	実績	構成比	実績	構成比	前期比	実質 ¹ 前期比	
日本	2,841	12.7%	2,261	10.8%	-	-20.4%	コロナ感染の減少に伴い店舗集客が回復。電子ピアノは、需要堅調も、継続的な供給制約により計画を下回る。電子管楽器、DJ機器、ギター関連製品が好調に推移。
北米	6,440	28.8%	7,490	35.7%	-	+7.7%	強い需要を背景に、幅広い製品群で好調な販売が継続。米国向け在庫アロケーションも寄与し、受注残の出荷も進む。
欧州	7,849	35.1%	6,402	30.5%	-	-18.8%	ウクライナ情勢悪化によるインフレ進行により、若干の消費マインド低下がみられるが、現時点で大きな影響はない。電子ドラム、ギター・エフェクターの販売が好調に推移。
中国	2,116	9.5%	2,018	9.6%	-	-14.6%	中国経済の減速、中国政府による教育規制が徐々に影響。足元ではゼロ・コロナ政策による都市ロック・ダウンにより販売・物流が不安定。
その他	3,106	13.9%	2,805	13.4%	-	-15.6%	多くの製品群で輸送遅延による販売影響があるものの、電子ドラムが好調を維持。アジア諸国の行動規制緩和に伴い、東南アジア、インドも回復基調。
合計	22,355		20,978	100.0%		-10.5%	

¹ 為替影響および、「収益認識に関する会計基準」の適用影響を除外した比較

第1四半期 連結営業利益

増減 (対前期比)

要因

(億円)

- 販売数量変化
- 売価/原価変動
- 販管費増減
- 為替影響
- 会計基準変更影響

販売数量変化

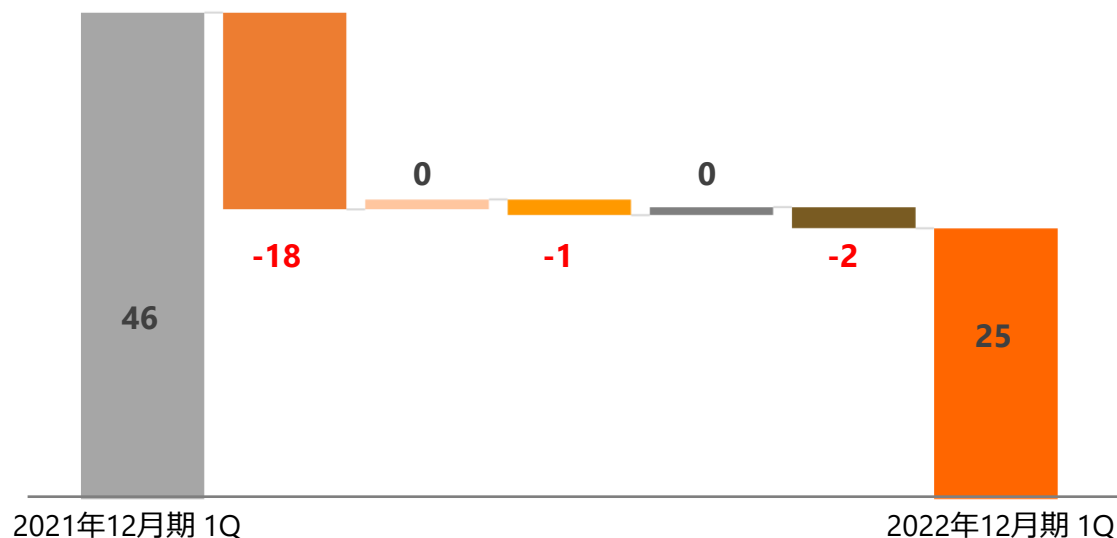
- ✓ 2020/Q4-2021/Q1の在庫政策からの反動減
- ✓ 供給制約影響

売価/原価変動

- ✓ 原材料、海上輸送費（工場→販社）が高騰（前Q1はコスト高騰影響を受けていない）
- ✓ 前期の価格適正化がフルに寄与

販管費増減

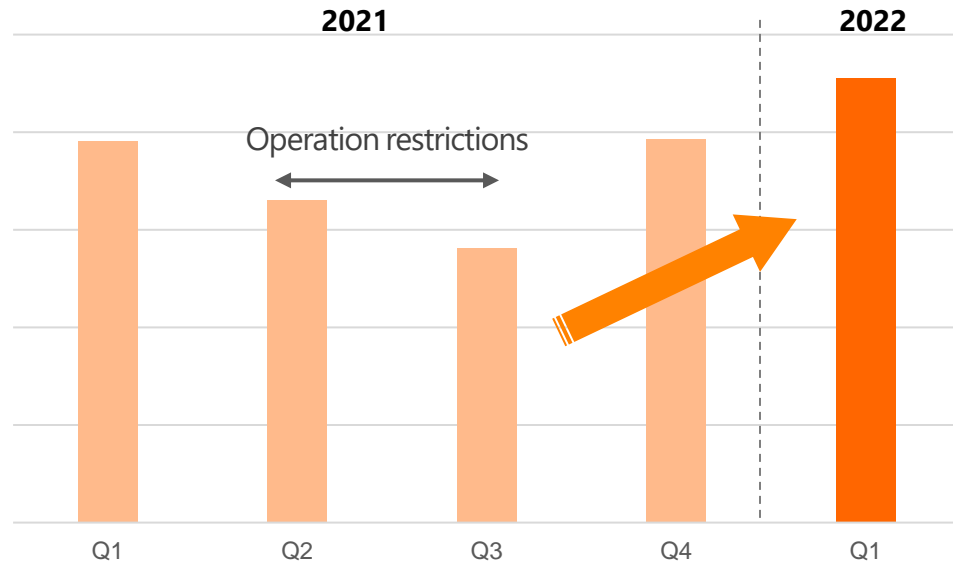
- ✓ 売上減に伴う物流費（販社→Dealer）の減少
- ✓ 広告販促費、人件費の増加



厳しい環境ながら生産高は増加、受注残額も改善傾向

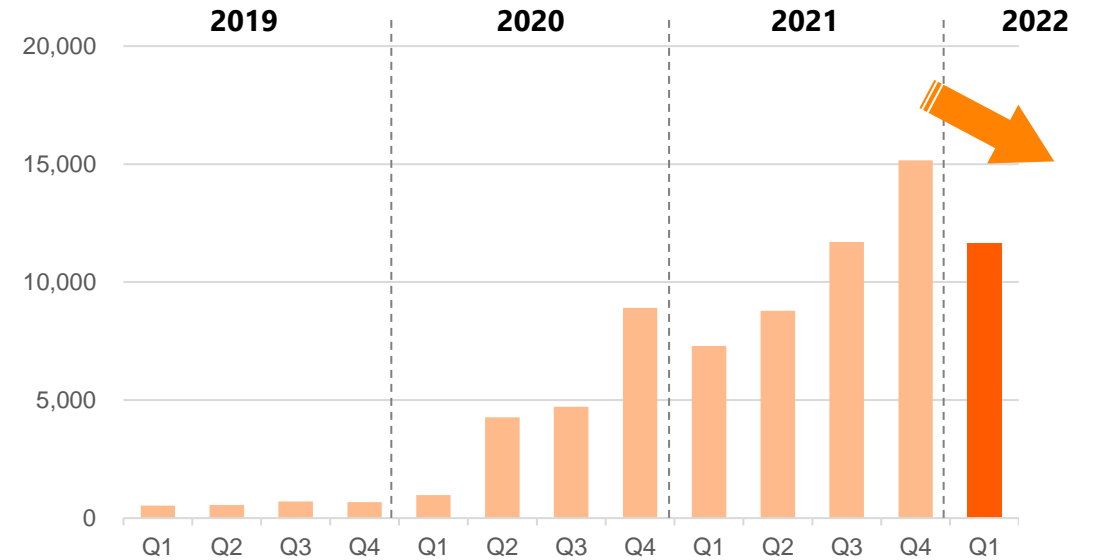
マレーシア工場生産高推移

- 調達の制約はあるが、**生産高は回復**
- マレーシア政府のウィズコロナ政策により足元の稼働状況も安定的



受注残額推移

- Q4以降の生産増加に伴い**受注残額は改善**
- セルスルーは堅調で、大きなキャンセルは出ていない



1

2022年12月期 第1四半期 決算概要

2

2022年12月期 通期業績見通し

3

補足資料

連結業績（変更なし）

(単位: 百万円)	2021年12月期 ¹		2022年12月期 ²					
	実績	売上比	新基準			旧基準 (前期同様の会計基準)		
			計画	売上比	前期比	計画	売上比	前期比
売上高	80,032	100.0%	85,000	100.0%	-	85,800	100.0%	+7.2%
売上総利益	36,137	45.2%	38,400	45.2%	-	39,200	45.7%	+8.5%
販管費	25,043	31.3%	26,800	31.5%	+7.0%	26,800	31.2%	+7.0%
営業利益	11,093	13.9%	11,600	13.6%	-	12,400	14.5%	+11.8%
当期純利益 ³	8,586	10.7%	8,700	10.2%	+1.3%	8,700	10.2%	+1.3%

1 2021年12月期の為替レート 米ドル/円：109.81、ユーロ/円：129.93、ユーロ/米ドル：1.183

2 2022年12月期の為替レート 米ドル/円：113.00、ユーロ/円：127.00、ユーロ/米ドル：1.124

3 当期純利益は、「親会社株主に帰属する当期純利益」を指す

<為替感応度>

主な通貨ペア	営業利益影響額 (年額)	
USD/JPY	1億円	(1円当たりの影響額。円安が有利)
EUR/JPY	0.3億円	(1円当たりの影響額。円安が有利)
EUR/USD	1.3億円	(1セント当たりの影響額。EUR高が有利)

通期では増収増益を見込む（変更なし）

- ロシア問題、中国ロックダウンに関しては、現時点では**業績予想に対する影響は軽微と見込む**
今後、大きな影響が見込まれる場合は改めて開示

	上期予想	下期予想	通期予想
	減収減益	増収増益	増収増益
売上高	406億 ・前期比 ¹ ：-4.7%	444億 ・前期比 ¹ ：+21.1%	850億 ・前期比 ¹ ：+7.2%
営業利益	46億 ・前期比 ¹ ：-36.3%	70億 ・前期比 ¹ ：+127.8%	116億 ・前期比 ¹ ：+11.8%

1 「収益認識に関する会計基準」適用前の前年比

外部環境は厳しいが、施策により四半期営業利益は反転

Demand



新しいLifestyleの定着により、**電子楽器需要は堅調**

Supply



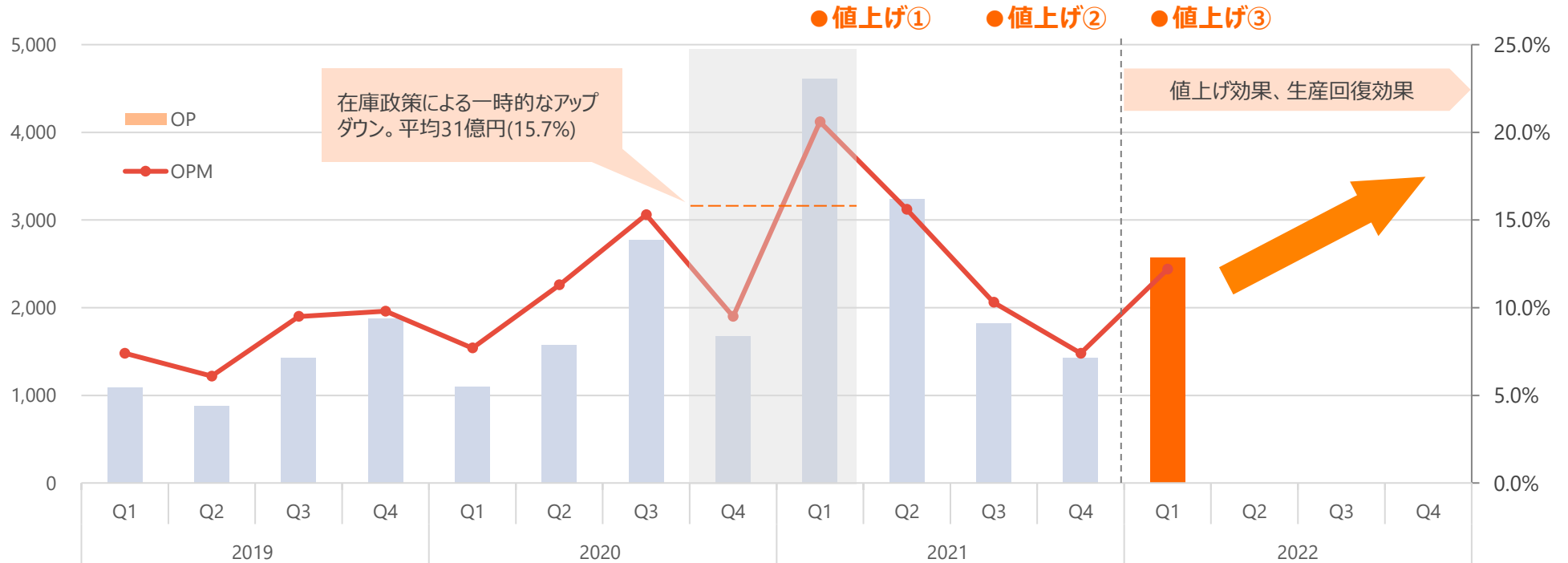
調達・海上輸送制約に大きな改善はないが、**マレーシア工場稼働は回復**

Cost



原材料、輸送価格は高止まり。**継続的な価格適正化を実行**

OP Forecast



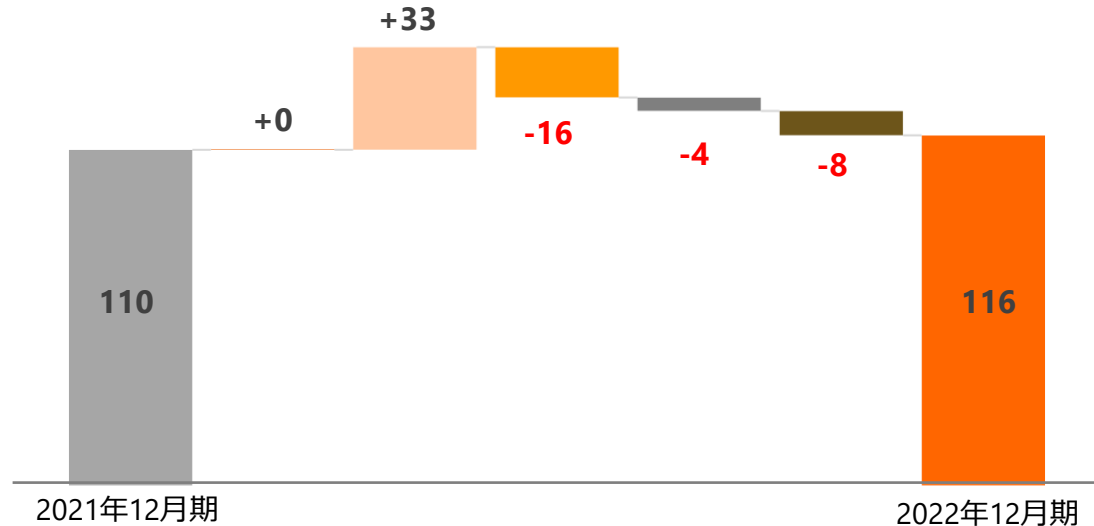
連結営業利益予想（変更なし）

増減 (対前期比)

要因（分析項目を見直し）

(億円)

- 販売数量変化
- 売価/原価変動
- 販管費増減
- 為替影響
- 会計基準変更影響



販売数量変化

- ✓ 上期は2020/Q4-2021/Q1の在庫政策からの反動減
- ✓ 下期に挽回し前期同等を確保

売価/原価変動

- ✓ 原材料、海上輸送費（工場→販社）の高騰
- ✓ 前期の価格適正化がフルに寄与
- ✓ 今期(Q1)の価格適正化も貢献

販管費増減

- ✓ 売上増に伴う物流費（販社→Dealer）の増加
- ✓ 広告販促費は抑制解除し例年並みの支出

1

2022年12月期 第1四半期 決算概要

2

2022年12月期 通期 業績見通し

3

補足資料

ロシア問題および中国ロックダウンによる影響

- 多少影響はあるもカバー可能。現時点では**業績予想に対する影響は軽微と見込む**
- 世界中でのインフレ影響は注視、今後大きな影響が見込まれる場合は改めて開示



ロシア

販売
機能

- モスクワに販売子会社
- 売上規模は**全体の1%**程度
- 規模を縮小し、**営業も停止中**

生産
機能

- 生産拠点なし



中国

- 上海に販売子会社
- 売上規模は**全体の10%**程度
- 在宅勤務にて**営業中**

- 蘇州に自社工場、深センに協力工場
- 2拠点計で、**全体の20%**程度の生産規模
- 物流制限により調達が遅延、生産に影響

Roland Cloudビジネスの進捗

- これから音楽を始めたい**ポテンシャルカスタマー**へも、音楽を楽しむためのトータルソリューションを提供
- 音楽を楽しむまでの様々な「壁」を取り除く**ソリューションプロバイダー**への転換を目指す

中長期クラウドサービスのビジョン



有料 会員数

2020年12月末時点

約**13,000**

(参考) Roland Cloud Account¹数

約**103,000**

2021年12月末時点

約**18,400**

約**176,000**

2022年3月末実績

約**19,500**

約**211,000**

- ソフトウェア、サウンドコンテンツの継続リリース
- Roland Cloud対応ハードウェアの追加
- 顧客拡大に向けた新サービスの検討、開発

50周年記念マーケティング活動

- 1972年に創立したローランドは、2022年4月18日に**創業50年**を迎えました
- 節目の年を記念し、世界中のお客様へ感謝を伝える**特設ウェブサイト『Roland at 50』を公開**
- 今後も様々な企画を展開予定



創業50周年記念特設ウェブサイト『Roland at 50』:
新しい音楽や文化を生み出したアーティストを称えらるとともに、各時代の音楽シーンに影響を与えた製品を紹介しています。

<https://www.roland.com/jp/roland-50th-anniversary/>

1970s 1980s 1990s 2000s 2010s 2020s

1982

SH-101 MONO SYNTH

遊びやすさを念頭に開発されたSH-101はフアクションにも大きな影響を与えました。ブルー、ブルー、レッドのカラーオプション、バッテリー駆動への対応、そしてキーター（ショルダー・キーボード）のように演奏できるこのモノシンセは、ステージ上のキーボード奏者のイメージを覆し、先進的なミュージシャンの間で大きなヒットとなりました。

JUNO-60 SYNTH

前身のモデルとなるJUNO-6に、当時としては珍しい音色の保存機能を追加したJUNO-60は56音色まで本体に保存することが可能でした。また、まだMIDIが生まれていない時代に、DCBインタフェースを使用してMC-4などの他の電子楽器を制御できる珍しい機能を搭載していました。

HISTORY / STORIES

**名曲のサウンドに迫る:
"Take On Me" by a-ha**

80年代を代表する楽曲を思い浮かべるとき、a-haのヒットシングル "Take On Me" は外せません。楽曲の裏側のストーリーとJUNO-60がどのように関わることになったのか？をお楽しみください。

Web記事を読む

上期連結業績予想（2022/2/10開示）

(単位: 百万円)	2021年12月期上期 ¹		2022年12月期上期 ²					
	実績	売上比	新基準			旧基準(前期同様の会計基準)		
			計画	売上比	前期比	計画	売上比	前期比
売上高	43,030	100.0%	40,600	100.0%	-	41,000	100.0%	-4.7%
売上総利益	20,326	47.2%	18,000	44.3%	-	18,400	44.9%	-9.5%
販管費	12,480	29.0%	13,400	33.0%	+7.4%	13,400	32.7%	+7.4%
営業利益	7,845	18.2%	4,600	11.3%	-	5,000	12.2%	-36.3%
当期純利益 ³	6,179	14.4%	3,500	8.6%	-43.4%	3,500	8.5%	-43.4%

1 2021年12月期上期の為替レート 米ドル/円：107.70、ユーロ/円：129.86、ユーロ/米ドル：1.206

2 2022年12月期上期の想定為替レート 米ドル/円：113.00、ユーロ/円：127.00、ユーロ/米ドル：1.124

3 当期純利益は、「親会社株主に帰属する当期純利益」を指す

下期連結業績予想（2022/2/10開示）

(単位: 百万円)	2021年12月期下期 ¹		2022年12月期下期 ²					
	実績	売上比	変更後			変更前(前期同様の会計基準)		
			計画	売上比	前期比	計画	売上比	前期比
売上高	37,002	100.0%	44,400	100.0%	-	44,800	100.0%	+21.1%
売上総利益	15,811	42.7%	20,400	45.9%	-	20,800	46.4%	+31.5%
販管費	12,563	34.0%	13,400	30.2%	+6.7%	13,400	29.9%	+6.7%
営業利益	3,248	8.8%	7,000	15.8%	-	7,400	16.5%	+127.8%
当期純利益 ³	2,406	6.5%	5,200	11.7%	+116.1%	5,200	11.6%	+116.1%

1 2021年12月期下期の為替レート 米ドル/円：111.92、ユーロ/円：130.00、ユーロ/米ドル：1.162

2 2022年12月期下期の想定為替レート 米ドル/円：113.00、ユーロ/円：127.00、ユーロ/米ドル：1.124

3 当期純利益は、「親会社株主に帰属する当期純利益」を指す

製品別売上高（2022/2/10開示）

単位：百万円	2021年12月期		2022年12月期			
	実績	構成比	計画	構成比	前期比	実質 ¹ 前期比
鍵盤楽器	24,792	31.0%	27,900	32.8%	—	+13.3%
管打楽器	19,053	23.8%	19,500	22.9%	—	+1.9%
ギター関連機器	19,093	23.9%	19,800	23.3%	—	+4.2%
クリエイション関連 機器&サービス	10,122	12.6%	10,400	12.2%	—	+3.1%
映像音響機器	4,282	5.3%	4,900	5.8%	—	+13.6%
その他	2,689	3.4%	2,500	3.0%	—	-3.4%
合計	80,032	100.0%	85,000	100.0%	—	+6.6%

1 為替影響および、「収益認識に関する会計基準」の適用影響を除外した比較

地域別売上高（2022/2/10開示）

単位：百万円	2021年12月期		2022年12月期			
	実績	構成比	計画	構成比	前期比	実質 ¹ 前期比
日本	9,666	12.1%	9,700	11.4%	—	+0.3%
北米	25,959	32.4%	27,200	32.0%	—	+3.3%
欧州	24,958	31.2%	25,600	30.1%	—	+6.5%
中国	8,673	10.8%	10,700	12.6%	—	+18.6%
その他	10,775	13.5%	11,800	13.9%	—	+10.5%
合計	80,032	100.0%	85,000	100.0%	—	+6.6%

1 為替影響および、「収益認識に関する会計基準」の適用影響を除外した比較

主要連結財務数値(PL/指標/BS)

(単位: 百万円)	2021年12月期 1Q	2022年12月期 1Q	(単位: 百万円)	2021年12月期 期末	2022年12月期 1Q末
売上高	22,355	20,978	現金及び預金	8,781	8,557
売上原価	11,863	12,169	受取手形及び売掛金	7,444	9,874
売上総利益	10,491	8,808	棚卸資産合計	25,240	27,648
販売費及び一般管理費	5,881	6,240	その他流動資産	1,156	1,120
営業利益	4,610	2,567	流動資産合計	42,623	47,201
営業外損益	-240	33	有形固定資産合計	5,857	6,000
経常利益	4,369	2,601	のれん	20	20
特別損益	111	-1	その他固定資産	4,305	4,169
税金等調整前四半期純利益	4,481	2,599	固定資産合計	10,183	10,189
法人税等合計	1,056	684	資産合計	52,807	57,390
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,423	1,912	支払手形及び買掛金	6,391	6,755
EBITDA	5,005	2,959	短期借入金	-	4,000
D/レシオ	0.4x	0.4x	1年内返済予定の長期借入金	1,252	1,252
自己資本比率	47.0%	51.5%	その他流動負債	8,389	7,734
Debt / EBITDA ¹	0.5x	0.9x	長期借入金	5,822	5,509
ROE ¹	60.7%	25.5%	その他固定負債	2,295	2,310
			負債合計	24,150	27,561
			純資産合計	28,656	29,829
			負債純資産合計	52,807	57,390

1 Debt/EBITDAおよびROEは年換算値

将来見通しに関する注意事項

本資料はローランド株式会社の「将来予想に関する記述に該当する情報」が記載されています。本資料における記述のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、将来予測に関する記述に該当します。これら将来予測に関する記述は、現在入手可能な情報に鑑みてなされた当社の仮定および判断に基づくものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。これには既知または未知のリスクおよび不確実性ならびにその他の要因が内在しており、実際の業績と大きく異なる可能性があります。実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、当社の事業を取り巻く経済情勢、需要動向、為替相場の変動等が含まれます。